

『子どもたちの「現実」から始めるSDGsの学び』を創る

日本ESD学会副会長 手島利夫

私たちは今、「新型コロナウイルスの蔓延」という大きな危機に対し、国を挙げて、世界と力を合わせて立ち向かっています。子どもたちも、様々な努力や工夫をしながら、当事者として頑張っています。子どもたち一人一人が生きている・見ている「現実」から始める「SDGsの学び」を進めることは、彼らの人生にとって一番大切な「厳しい時代を生き抜く力」の育成につながると考え、この授業用動画を作成しました。

この動画では小学4年生くらいから大人まで楽しく、参加型に「私たちの今と未来」について学び、SDGsについても関心を深めていただけるようにしています。授業のスタイルをとっていますが、ご家庭で利用していただくのも、学校の授業でご活用いただくのも、どちらも大歓迎です。

「新型コロナウイルスから始めるSDGsの学び」では、新型コロナウイルスによる身近な変化に気づき、それをまとめながら、SDGsという視点から世界の課題を語れるようになります。

また、「SDGsってなんだろう」では、「縄文人の食料危機の克服」から、私たちの歴史を振り返り、「〇〇克服物語づくり」などのワークショップを通じて、幅広い世界の課題やSDGsとの関係に気づいていきます。

コロナ禍の影響を受け、教育の問題が学力保障やそのためのIT活用に偏って論じられています。この動画資料のご活用等を契機に、学習指導要領前文に示された「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする」ことに思いを致していただきたいものです。そして、思考力・判断力・表現力・実践力といった「問題解決能力」の育成やそのような「学びに向かう力・人間性」の涵養という教育改革の本題に立ち向かう日本の教育を取り戻していただきたいものでもあります。

手島利夫プロフィール

1952年、東京生まれ。江東区立東雲小学校長、江東区立八名川小学校長を歴任し、ユネスコスクールとしてESDカレンダーの開発・ESD推進に携わる。2007年以来、ESD円卓会議委員等の役職を務める。2010年第1回ユネスコスクールESD大賞を東雲小学校が受賞。2012年第3回ユネスコスクールESD大賞を八名川小学校が受賞。2014年ユネスコESD世界会合参加。2015年博報児童教育振興会より、教育活性化部門で「博報賞」個人受賞